

2021年9月15日

留学報告書

学部 地域環境科学部
職名 教授
氏名 岩永弘人

1. 留学先 英国ヨーク大学
2. 研究課題 16世紀英国におけるペトラルキズムについて
3. 期間 2021年5月10日～2021年8月21日
4. 研究実績

テーマ1: ウィリアム・シェイクスピアが関わっているとされる詩集『恋する巡礼』(The Passionate Pilgrim)に見られる「シェイクスピア崇拜」的特質について。

ヨーク大学モレル図書館でのリサーチを経て、最終的に8月7日(日)8時(現地時間)に、Zoomによる講演を実施した。(秋田大学佐々木和貴教授を座長とする「シェイクスピア崇拜」をテーマとする科研グループ向け。)リサーチ中様々な文献を参照したが、最終的にシェイクスピア以外の作家(バーソロミュー・グリフィン、リチャード・バーンフィールド)を中心に論じる事になった。講演においては、イギリス滞在中のみ利用できる「e リソース」の画像の提示が非常に効果的であった。

テーマ2: 英国の詩人バーソロミュー・グリフィンの詩集『フィデッサ』における病の構造。

同じくヨーク大学モレル図書館で調査を重ね、執筆を8割ほどした時点で帰国の途についた。帰国後2週間の自己隔離中に執筆を続け、9月5日に完成し、十七世紀英文学会に投稿した。
(「自我」という病: バーソロミュー・グリフィン『フィデッサ』のペトラルキズム)
https://tokyonodai-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/iwan_nodai_ac_jp/ERdISz8DQMZHq9VT-yeAIAwBDxkZorwIFOGG8jAU9xVfnw?e=byi4Sm

テーマ3: イタリア14世紀の詩人、フランチェスコ・ペトラルカの詩の熟読と問題点の抽出。

イタリアの詩人、フランチェスコ・ペトラルカの代表作『カンツォニエーレ』中の代表的な詩をイタリア語で読み直した。岩崎宗治訳『ペトラルカ恋愛詩選』(水声社)をテキストとし、ヨーク大学図書館の資料(注釈本・辞書)を活用した。